

みんなで作る森の学び場～里山保育 「ぐーりりの森のこどもえん」

活動地域  新潟県

つづける助成

3年目

実践

週末の里山保育活動・子ども参加人数 **306人**

整備により維持管理した森林面積 **4ha**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **90%**



子どもたちはいつも全身全霊で自然と戯れる

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍において、団体の受入れや出張開園の予定の多くがキャンセルとなり、スタッフの確保にも影響が生じるなどにより、体験活動を一時休止することになった。

■ 工夫した点

新型コロナウイルス禍で予定していた活動を延期せざるを得なくなったが、森に集まらない間は整備や学び場づくりを前倒しで進め、来るべきときに子どもたちを迎えるための準備を整えた。

課題

人の暮らしが自然から乖離し、里山は荒廃した。子どもたちがのびのびと遊び学べる環境も明らかに劣化し、本来自然の中で育まれるべき感性や生きる力が十分に養われない。

目標

定期的な整備により里山を再生させ、そこに森の学び場となる空間と時間を作り出すことで、子どもたちが森に通う機会が増え、自然への愛着を持つようになる。

活動内容と成果

年間を通じて、里山保育「ぐーりりの森のこどもえん」を週末に16回開園し、合計306人の参加を得ることができたほか、他地域への出張こどもえんを2か所で5回開き、合計で約230人の参加を得られた。常連の参加者がサブスタッフのように手伝ってくれたり、参加した子どもの保護者の方から「この森の古株だというのがうちの子の自慢らしい」という声も頂くなど、地道に重ねてきた活動が確実に森への愛着へと変わり、プロジェクトをともに動かす仲間が増えたと実感する。



森の整備は子どもたちも手伝ってくれる

全助成期間の活動を振り返って

「ぐーりりの森のこどもえん」は始めた当初、参加を呼びかけても申込みがなしという日もあるほど無名であったが、とにかく3年間地道に活動を積み重ねることで少しずつ森の学び場を設えた結果、今では団体の代名詞的ともいえる活動へ変貌を遂げた。環境教育は成果が短期間で現れにくいものであるが、いつも通う森が少しずつ再生・成長するのを感じると、人の意識は大きく変化し、行動を起こす力になるということを実感した。



数年前まで荒れ放題だった山林が憩いの場に

〒959-1931
新潟県阿賀野市山寺794-499
E-mail: shelter@tiny.jp
HP: <http://shelter.tiny.jp/>



今後の
展望

助成により多くの人に愛されるようになった「ぐーりりの森のこどもえん」という活動をこれからも大事に積み重ねながら、より多くの人に、「整備と同時並行で子どもたちの森の学び場をつくる」という取組みを知ってもらい、ともに活動する仲間を増やしていくことで、学び場づくりからエコビレッジづくりへと発展させていく。同時に、他地域でも「整備と一体になった森のこどもえん」が生まれるようなサポートも担っていきたいと考える。